

「山形学」 とは

山形県という地域を多様な切り口から学習・研究する地域学です。山形県の森羅万象、そして山形県に関する書物及び情報のあらゆるものが、「山形学」の教材となります。

「山形学」 の目的は

県民一人ひとりが自分の住む山形県について学び、山形県人としてのアイデンティティを確立することで、豊かな地域づくりへとつながる人づくりを目指します。

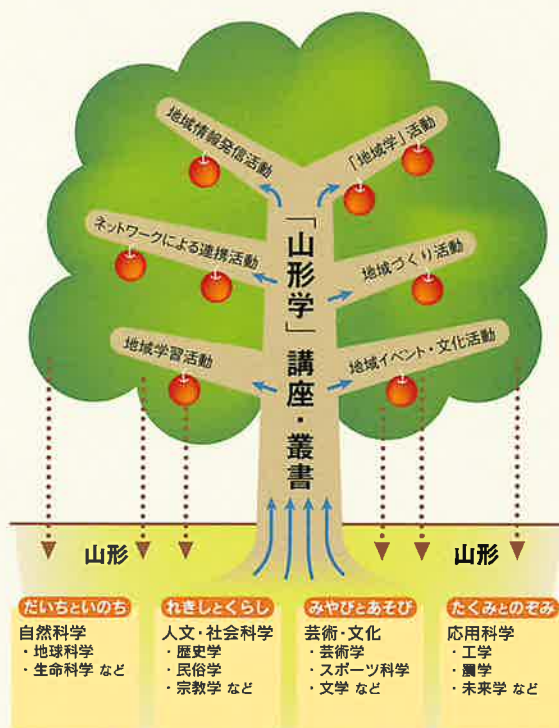
「山形学」 の願い

- 1. 山形を知る**
「山形学」が、より多くの人にとって、山形県についての多面的で的確な知識を得るための学習の場となることです。
- 2. 山形に生きる**
「山形学」を通じて、その地域に住む自分を振り返り、その地で生きる者としての認識を新たにしていくことです。
- 3. 山形を創る**
「山形学」で培った知識を基にして、学習者自らがこの地でより良く生きていくために、これから地域とどのように関わっていくか、地域をどのように創っていくかを考えることです。

「山形学」 の理念

「山形学」の理念を木に例えると、根の一本一本が既存の科学などの各分野にあたり、その各分野から養分を吸い上げる幹にあたるのが「山形学」講座や講座内容をまとめた叢書であり、細い枝の先が「山形学」の学習者一人ひとりを表現しています。

枝につく葉は太陽の光を受けて光合成を行い養分を作り出すという意味では、「山形学」学習者は「山形学」の創り手ともいえます。



山形学 の案内

山形学

「山形学」の事業構成とそのあゆみ

「山形学」講座

「山形学」という地域学のモデルとなる講座です。毎年、切り口を変えながら、山形県全体を対象とした地域学を実践し、後年の研究資料となるように、講座内容を叢書（遊学館ブックス）としてまとめます。

また、テーマの設定や講座の形態、組み立て、学習の進め方など、講座技法を学んでもらう機会としても位置づけています。

《あゆみ》

平成元年1月に「創造企画会議」を起こし、研究員4名による1年間にわたる検討結果を基に、平成2年度に開講した「山形学」講座から「山形学」はスタートしました。この「山形学」講座は毎年テーマを変えながら継続し、現在も「山形学」の柱となっています。

「山形学」地域連携講座

「山形学」の理念を普及するため、地域やテーマをしぼって地域学を展開する講座です。市町村及び地域の各団体、高等教育機関等と連携して、県民の皆さんが地域について学ぶための機会提供を行います。

《あゆみ》

平成5年度に県内での地域学普及を目的に、自治体や学習グループによる地域を学ぶ講座との連携を開始しました。平成9年度からは「山形学」地域連携講座と名称を定め、「山形学」の理念に基づく地域学を全県的に推進してきました。



「地域学交流集会」

「山形学」地域連携講座を実施する団体を中心に、県内外の地域学を実践している皆さんの情報交換、交流の場を提供します。

《あゆみ》

平成12年度に全国各地で活動を展開している地域学の仲間が集い、情報を交換し、互いの活動の一層の充実を図ることを目的に「全国地域学交流集会」を初めて開催しました。翌年、平成13年度に山形県で開催された全国生涯学習フェスティバルにおいても「全国地域学サミット」を開催し、21世紀の「地域学」のあり方を探りました。以降、毎年「地域学」をテーマにした交流集会を開催し、県内外の地域学実践者の情報交換・交流の場を提供してきました。